

# 峰山の周辺地域に残る伝説

## 名馬池月

昔、馬本地区の赤沢へどこからともなく一頭の子馬が現れ、村の人が取り押さえようとしたところ、突然「天馬空行くが如く」走りだした。追いかけて伏馬田地区まで行ったところで子馬も力がつきて路傍に倒れ込んでしまったという。驚いた村人が招いた牧馬地区の名医の手当により元気を回復し、以後、治療と訓練によって飼育され、稀有の駿馬に成長した。

飼い主がこの駿馬を時の将軍に献納したところ、将軍は非常に喜んでその功を賞し、この地に駿馬のゆかりのある馬本・伏馬田・牧馬という地名を贈ったといわれている。

後年、馬本地区に品性のよい武士が来て「我は当村より献納したる良馬に縁のあるものだ。良馬発祥の地を見、かつ冥福を祈らんがために来た」と告げ馬本に永く滞在し、ついに土着して百姓となった。その武士は佐々木四郎左衛門高綱の後裔だったといわれる。良馬は宇治川の先陣に功をたてた池月であるとの伝説がある。

## 蓮乗院

蓮乗院は弘安8年(西暦1285年)弘法大師21世孫弟、東海忍性律師が開基した。伝説では、それ以前の第76代近衛天皇(西暦1141年)の頃、どこから来られたか判然としない聖人が、のちに蓮乗院ができたところに寺を創ったという説があるが、寺の名も聖人の名も明らかではない。当時慧星が現れて、全国で天変地異の起こらないことを人々が祈願していたという。この寺もその法場のひとつであると考えられる。この寺に懸けられていた梵鐘から大鐘の地名がつけられたという。

## 曾我の兄弟

堂地地区には七つの堂宇(仏堂)があり、堂地の地名はこれによるものといわれる。

源頼朝が富士の裾野で狩りを行った際、曾我の十郎・五郎両名が亡父の仇工藤祐経を討つためこの裾野に行こうとしたが、東海道は警備が厳重で通過するのが困難だと悟り、やむを得ず裏街道をたどりこの地を通過したという。その途中、堂地地区にあった安国寺にて休息したといわれている。兄弟はここより道志を経て裾野に至り、無事本懐をとげている。

## 雛鶴姫(大塔宮の侍姫)

建武の乱の際、足利直義の命を受けた、瀧辺伊賀守義博により建武2年(西暦1335年)、鎌倉二階堂谷で、後醍醐天皇の第1皇子である大塔宮・護良親王が殺害された。御首が生きているようであつ口中に剣の先を含んでいる様をみて恐ろしくなった義博は、御首を藪の中に棄てて逃げ去った。凶事を聞いた近臣松木宗忠が御首を箱に納めて鎮め、相州寒川神社から三増峠を越えて甲州秋山村、さらに富士浅間宮司の家に至り、御首を内宮に隠秘し奉った。御首は山梨県都留市の石船神社に現存するといわれている。

護良親王の子を宿していた雛鶴姫は、菊地、馬場両氏と宮の守護神だった天神徳と共に遺骨を納めるために鎌倉を発ち、東海道に向かう際、旧津久井郡青山村を通った。姫はみごもっていたため疲労激しく、この地にしばらく滞在し、その間に護良親王の35日忌ということで供養塔を建立した。後に甲州に行く途中、小舟地区の「天下」という家に泊まり、秋山村に向かった。

甲斐国秋山嶺の麓にさしかかったところで産気づき、王子を分娩したが姫は死去してしまい、秋山山嶺に葬られた。よってこの嶺を雛鶴峠と呼ぶ。

姫が産気を催したのは、秋山川の上流であり、お産の汚れで秋山川の川石には赤色を呈している石が多いといわれている。



## やまなみ公園

癒しの里山歩きと温泉が楽しめる



**花公園**  
「緑と花の歴史散策」

**神社・ホテル公園**  
「藤野の地域遺産とホテル鑑賞散策」

**峰山自然公園**  
「峰山自然散策」

maginoやまなみ公園は神奈川県最北端に位置する相模原市緑区の藤野エリアにあります。藤野エリアは文化・芸術による町おこしで知られています。また相模川の水源地域で、豊かな自然が残っており、里山の豊かな自然と人のふれあいに魅せられ、休日には多くのハイカーや登山客が訪れています。JR中央線が高尾駅から山梨方面へ2駅(約14分)と都心から近く、日帰りできる里山として話題になっています。maginoやまなみ公園へは、JR藤野駅より「やまなみ温泉行」(バス野05野11)で、約20分です。バスの本数がすくないので、ご注意ください。



- ◎電車:  
新宿→高尾→藤野(所要時間約75分)  
横浜→八王子→藤野(所要時間約90分)
- ◎中央自動車道:相模湖IC



神奈中バス時刻表:  
QRコードにアクセスしてください。

問い合わせ先:「藤野観光案内所・ふじのね」TEL: 042-687-5581まで

癒しの里山・藤野

# 峰山自然公園



癒しの里山歩きと温泉が楽しめる

